



2018 年頭のご挨拶

静岡県電気工事工業組合

理事長 松田良克

新年明けましておめでとうございます。

静岡県電気工事工業組合の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年平成29年は、トランプ氏の大統領就任で幕を開けました。難民や中東からの入国制限、TPPへの不参加表明、北朝鮮への厳しい発言など、これまでの米大統領とはかなり異なった施策や発言が多いと感じております。米の株価は堅調に推移しているようですが、今後もその動向に注目していきたいと考えます。3月には北朝鮮が日本海へ4発の弾道ミサイルを発射し、その後も中距離弾道ミサイルを発射、水爆実験には「完全に成功した」と発表するなど緊迫した状態が続いています。1日でも早い時期の解決を切に期待しております。さらに5月には、出生数が初の100万人割れと発表されました。少子高齢化に歯止めが掛からない状況に、今後の工組の在り方やインフラ整備ニーズについても考慮が必要であると思います。そして7月には「宗像・沖ノ島」が世界遺産になるという明るいニュースがありましたが、その後も11月に登録記念シンポジウムが開催されるなど今後も広く浸透していってくれる事を願っております。10月の衆院選においては与党が3分の2以上の当選者を出しましたが、今後の政策や経済動向が注目される所です。また、私の事業活動の中で昨年最も印象的であったのが幾度か中国拠点を訪問した時、中国市場の大きさ、中国経済の発展の速さなどを改めて感じた事です。中国に於ける各国有数企業の生産拠点が集約している事なども含め、中国が世界経済の鍵を握る経済大国への道を歩んでいる事を感じ、今後は日本の経済への影響力も更に深まるのだろうと実感しました。

昨年は大きな地震災害の発生はありませんでしたが、組合員皆様のご協力もあり、県内多くの自治体では感震ブレーカの設置助成制度が設けられました。制度が多くの方に利用されることが肝心ですので、県工組としても制度の周知や設置に積極的に協力し、地震災害の低減に取り組んでいきたいと思っております。

また、各戸へのスマートメータ設置が急速に進んでおり、中部電力管内では、2023年3月までにすべてのお客さま（約1,000万台）への設置を完了する予定です。自動検針やスマートメータを活用した新たな料金メニューなどの取組もあり、これまでに無いサービスが開始される可能性があります。我々としても注視していきたいと考えています。

全日電工連の米沢会長は、「我々電気工事業界は国民生活や産業基盤のインフラを支える電気を、安全・安心にお届けするという社会の負託に応えることをモットーとして活動している。昨今、地球環境変動による自然災害が多発するなか、あらためて、社会からの信頼、社会貢献を目指す姿勢をこれまで以上に確立すべきである。」と述べられています。我々も「街の電気ドクター」としてお客様の信頼に一層応えていきたいと考えております。

また、新規入職者不足の問題に関しても「今年度から、非電気系業種からの入職者の早期戦力化対策・非電気系学科の生徒との交流の拡大を目指すなど積極的に事業の展開を進める。」と述べられています。最近では「給料より休みが欲しい。」等の意見を持つ若者も多く、人手不足の問題を解決するのは困難ですが、こうしたアプローチも含め様々な方策を考え、将来の人材確保にも取り組む必要性も感じております。

静岡県工組は、全日電工連と共に議員各位・関係行政のご指導のもと、電力会社をはじめ関係団体・企業等と連携・協業を行いながら、また一方ではお客様との信頼関係の構築・向上など組合員の皆様の役に立つ事業を目指し、鋭意取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。